# 被検者募集

　臨床研究「嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などの嚥下機能検査を用いた加齢や　　神経変性疾患が嚥下機能に及ぼす影響の評価」について

　茨城県西部メディカルセンター内科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望する場合は、担当者までご連

絡をお願いいたします。

　本研究の概要は以下のとおりです。

1. 研究対象

　　　加齢や脳血管障害、神経変性疾患などで嚥下機能障害をきたした方。

1. 研究の意義・目的・方法

　日本は世界に先駆け超高齢化社会に突入し、今後も高齢化率が高くなることが予測されています。加齢による嚥下反射の惹起遅延、咽頭残留の増加、気道防御反射の低下など、高齢者では嚥下障害が問題となります。当院の位置する茨城県西部は高齢化率が30%と非常に高く、高齢の入院患者も多いため嚥下障害を合併している方が多い現状です。それゆえ、嚥下リハビリの需要も多く、誤嚥性肺炎の予防は課題の一つです。嚥下造影検査は、口腔、咽頭、食道の機能、構造の異常を食塊の動きで観察でき，嚥下障害の原因検索のみならず，摂取可能な食形態の選定や患者・家族への指導にも役立つ検査です．また、嚥下内視鏡検査は内視鏡を咽頭に挿入し、嚥下の様子を直接観察する検査で、咽頭期の機能的異常、器質的異常の評価、リハビリテーション手技の効果確認などが可能な検査です。

つまり、これらの嚥下機能検査を適切に使い分け、また併せて行う事で、院内での安全な食事の提供や退院後の適切な食事形態の選定につながると考えられます。

そこで、本研究では、加齢や脳血管障害、神経変性疾患などで嚥下機能障害をきたした方に、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査を施行し嚥下機能の評価を行い、それぞれの検査の比較をする事で、各疾患における嚥下障害の特徴やリハビリ介入による経時的な変化を検討します。また、嚥下機能検査の施行時期や施行方法についても検討し、最適な嚥下機能検査の方法の確立を目指します。

本研究の成果により最適な嚥下機能検査が確立され、その検査結果を家族や介護スタッフにフィードバックする事で退院後の食事形態が確立でき、医療スタッフ間で共有する事で院内での安全な食形態の提供にもつながると考えられます。また、各疾患ごと嚥下機能障害の特徴を理解する事で、それぞれの疾患にあったリハビリテーションが提供でき、誤嚥性肺炎の予防にもつながります。そして、これらによる地域医療の充実を図ることができると考えられます。

本研究では、上記疾患で通院中及び入院中の方に嚥下機能検査を行い、その結果を解析します。

なお本研究は新薬の安全性や有効性を調べる治験ではなく、嚥下機能検査の結果の解析を目的とした研究です。

1. 研究期間：倫理審査委員会承認後〜２０２５年３月３１日
2. 研究機関名・研究者名

　　　茨城県西部メディカルセンター内科・保坂孝史

1. 保有する個人情報に関する利用目的

　研究のため得られた情報は全て匿名化した上で管理し、研究終了後は破棄します。同意がある場合は研究終了後も厳重に保管し、後続の研究に使用します。

1. 保有する個人情報の開示手続

　　　原則として開示可能です。

1. 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

茨城県西部メディカルセンター

所属・担当者名：内科・保坂孝史

電話・FAX：0296-24-9111（対応可能時間 平日9時〜17時）